

令和6年度 大阪府立箕面支援学校 第1回「学校運営協議会」議事録

日 時	令和6年7月12日（金） 10：00～11：40（本校校長室にて）			
出席者	協議会委員	職名等	学校事務局	校務分掌等
	山本 智子	皇學館大学 教育学部 准教授	杉本 幸一	校長
	阿久根 賢一	社会福祉法人 福祥福祉会 理事長	稲野 早苗	教頭
	千馬 外代美	本校後援会 会長	吉村 晋治	教頭
	山下 志保	本校保護者（PTA会長）	切通 圭介	事務長
			藤嶋 耕治	首席（小学部付）
			宮脇 敦子	首席（中学部付）
			長峰 祐介	小学部主事
			竹中 俊	中学部主事
			丹羽 はるか	高等部主事
			北村 直樹	首席（高等部付） 事務局長
欠席者	高田 浩行	社会福祉法人 川西市社会福祉協議会事務局 局長	李 容司	首席 養護教諭
	青島 薫	吹田市立こども発達支援センター わかたけ園 園長		
おもな テーマ	「令和6年度 学校経営計画について」			
協議内容 の概略	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校長挨拶 2. 自己紹介（委員及び教職員） 3. 学校運営協議会について（実施要綱の確認） 4. 本年度「会長」及び「副会長」の選出 5. 各学部概要の説明 6. 協議事項 令和6年度学校経営計画について 7. 事務局より諸連絡 8. 学校長挨拶 <p style="margin-top: 10px;">* 中学部（みのまつり）、高等部（生活課程スポーツ大会）見学</p>			

<p>協議内容 質疑応答 ・ 提言等</p>	<p>【開会、校長挨拶】</p> <p>今年度も3回の運営協議会開催を予定しております。学校運営協議会での内容がホームページなどを通じて発信をされますので、学校の取り組みについて様々なご意見をいただき、箕面支援学校の教育が少しでも発展できればと思っております。よろしくお願いいたします。</p> <p>【自己紹介】</p> <p>委員、教職員の紹介</p> <p>【学校運営協議会実施要項について】</p> <p>昨年度からの変更はない。最近の変更点としてオンライン会議の実施についての内容を追加した。今年度も3回の開催を予定しており2回目が11月、3回目が1月に開催を予定している。</p> <p>【本年度会長・副会長選出】</p> <p>会長：山本 智子委員、副会長：阿久根 賢一委員を選出</p> <p>【学校概要（各学部概要）について】 全校での変更点⇒各学部の教育目標</p> <p><長峰小学部主事> 小学部概要について</p> <p>新入学生は10名。内、人工呼吸器を装着しての登校児童は3名。入学より保護者付き添いをお願いしていたが、全員が付き添い期間を終え、単独登校に向けて取り組んでいる。</p> <p><山下委員></p> <p>医療的ケア児の保護者から、入学をすると親の手から少し離れると思っていたが、毎日付き添いをするのが負担に思えることがあり、付き添い期間が長いのではという話を聞くことがある。もう少し短縮をすることはできないのか。学部が変わった時にも付き添いが必要なことも聞いている。</p> <p><山本委員長></p> <p>この件は、児童生徒の実態や担任の考え、保護者の想い、登校の回数など複雑な条件があると思うが、学校側はある一定スタンダードな対応をされていると思う。これをすべて個別対応にすると、担任と保護者の間に軋轢が生まれる恐れがある。学校側はこの件を希望として受け入れるとしても、ほかの課題が生まれ、解決は難しいように思える。確かに、付き添いとなると保護者の負担は大きい。それを学校側も理解しつつ、関係を築いてもらいたい。</p> <p><千馬委員></p> <p>どの児童生徒にも付き添いが必要なのか。また、付き添い期間はどれくらいなのか。</p> <p><長峰小学部主事></p> <p>1年生は入学式の次の日から付き添いをお願いしており、医療的ケアの無い児童は最短で3日、医療的ケアのある児童は1か月を目安としている。医療的ケアのある児童の保護者には必要な時間のみ付き添いとなっていることもある。付き添いが長くなるのは人工呼吸器を装着して登校している児童の保護者になる。人工呼吸器を装着しているため、医療的ケアが継続的に行われていると判断される。そのため一定期間、授業中も付き添いが</p>
------------------------------------	--

必要となる。なので、医療的ケアの内容や登校日数などにより、保護者の付き添い期間はさまざまであるが、ある一定目安の期間は設けている。

現在人工呼吸器を装着している児童が増えているため、担任側の意識として人工呼吸器への抵抗感は減ってきている。人工呼吸器の使用法として自発呼吸がないのではなく、自発呼吸があり、補助的に使用している児童も増えてきているのが現状である。

<藤嶋首席>

学校看護師（常勤4名、非常勤11名）の指導の下、教員は医療的ケアを実施できる。保護者に付き添いをお願いしている理由として、まずは看護師と指示書の確認や実際のケア方法などの情報共有をしっかりとしてもらおう。それを看護師間で共有をしてから教員へ指導をすることができるので、ある程度の時間は掛かることになる。また、人工呼吸器については看護師しか触ることができないケースが多いため、付き添い期間が長くなることはご理解いただきたい。

<竹中中学部主事> 中学部の概要について

中学部は全生徒38名で運営をしている。内1名は訪問籍であるが、通学籍への変更に向けて頑張っている。先日はプールにも入れた。

本日は、中学部のイベントで「みのまつり」を実施中。見学の時に楽しんでいただければと思う。

<丹羽高等部主事> 高等部の概要について

高等部は学級編制が1年生は知的・肢体が混合で、2、3年からは別で運営をしている。3年間試して取り組んでいるが、今年度は3年目にあたる。このままの形を維持するのか、さらに変更をするのか検討する年度となっている。

進路について、1年生ではイメージを持ってもらい、2年生では選択をしていく。3年目は主体的に決めていき、卒業後の進路先が確定していく。見学や相談の機会として日中活動事業所相談会や夏季・秋季施設見学会を実施している。卒業後、生活介護の事業所を利用する場合は2か所以上を併用するケースが近年多い。

<千馬委員>

どうしても1か所の事業所に行けないのか、それとも保護者、本人の希望なのか。

<丹羽高等部主事>

保護者の希望があったり、事業所側の定員の関係があったり、様々な要因がある。感染症などが拡大し、休所せざるを得ない事業所が出た場合、1か所であれば、一定時期行き場所がなくなるケースもある。それを防ぐためにも複数事業を希望されることも多い。

<山本委員長>

担任、進路担当は負担になっていないか。

<丹羽高等部主事>

区分認定などの説明も保護者へ行っているのですが、業務は多岐にわたっている。複数の事業所への見学・実習は保護者・生徒や教師も忙しい日々を送っているが、相談しながら進路選択ができています。

<山下委員>

進路に関しては悩んでいる保護者の話はよく聞く。先日も進路説明会があり、次の説明会も参加するとおっしゃっていた保護者もいた。

<阿久根副委員長>

大阪市内では事業所を兼務するケースが多いが、豊中、箕面は1か所が多いと聞いていた。この数年で背景が変わったのか。保護者の希望か。事業所の都合か。

<丹羽高等部主事>

サービスの内容も変わってきているので、生活のリズムの中で利用したい事業者を選ぶケースが多い。例えば入浴。使い分けをするために複数個所となるケースもある。

<山下委員>

デイサービスは子どもも3か所利用している。複数利用していてよかったと思ったことはコロナ禍の時。一定期間閉所するとなった時に、他のデイサービスを利用することができた。現在も入浴などの使い分けもしている。

<山本委員長>

児童生徒のニーズに合わせた活動をしてもらえているのは学校だと思う。児童生徒の生活の流れをみて、バランスの取れた活動をしてもらえているのではないか。

<山下委員>

連絡帳を見ると、その日の学校での様子や活動を細かく記入していただいているので、本当に感謝したい。

<藤嶋首席>

近年の変化として、ケアの必要な児童生徒が利用しているデイサービスに、そのまま進路先に希望するケースも多い。また、学校での学習時間とデイサービスでの入浴時間が重複してしまうという課題もある。

<山本委員長>

以前は学校と自宅しかなかったので、学校でしっかりと活動をして、自宅でゆっくりと過ごす流れだった。近年は学校と自宅の間にデイサービスなどが入ったが、それぞれの場所で児童生徒・保護者のニーズに応じた活動ができていると考えてよいのではないか。

【令和6年度学校経営計画について】

<杉本校長>

- ・めざす学校像、中期的目標について数値以外の変更なし。
- ・本年度の取組内容及び自己評価

1(1)キャリア教育の推進

イ. 様々な活動を通じてキャリア教育の意識を高めていく。

(2)個別の教育支援計画の活用の充実

ア. 学校と保護者が児童生徒を中心にどのような面を伸ばしたいのかどうなってほしいのかを共有し充実することを目標と上げている。

2(1)新学習指導要領に準拠した教育課程の編成に基づく授業実践への取組み

ア. シラバスは整理されてきた。観点別評価について、重度の児童生徒の動きや考えについてどのように評価をしていくかが新たな課題としてあげられるが、夏休みの研修を通じて検討を行っていく。

- (2) 多様化する児童生徒への支援における教員の専門性や授業性や授業力の向上
- イ. ICT機器活用をPTAと連携をして土曜日に活動を設立した。VOCAに興味を持つ保護者がいたり、校内でも活用が進んだりしている。
楽しみながらリハビリができる「デジリハ」を今年度から活用し、実施していく予定。
- オ. 40周年記念行事が1月31日に予定をしているが、スヌーズレンの活用として体育館で大規模なスヌーズレンを実施し、参加者に楽しんでもらえるように企画をしている。
- (3) 教員の働き方改革や業務軽減を進めながら効率的・機能的な運営組織の構築
- ア. 残業時間はこの2年間で約3%ずつ減ってきている。水曜日は定時退庁日を設けているので、今年度はさらに減少すると思う。教師は疲れを残さず子どもと向き合う時間を大事にしてもらいたい。
- 3 (1) 学校情報の積極的な発信
- ア. マチコミを活用して配付物をデジタル化(一部はペーパー)している。また、児童生徒の欠席はGoogle formを活用し、保護者も欠席連絡を電話で行わなくなり、負担も減ってきていると考えられる。
- (4) 進路の充実
- ア. 早い段階から進路説明や体験を実施していく。
- 4 (2) 大規模災害、防犯にかかる具体的対応策の強化・推進
- ア. 避難訓練と引き渡し訓練の複合訓練を実施済み。今後、PTAと共催で災害派遣福祉チーム(D-WAT)に来校してもらい、福祉の観点からの勉強会も行っていく予定となっている。
- (3) 医療的ケアを必要とする児童生徒の安全確保の推進
- イ. 看護師の校内での連絡方法としてトランシーバーを活用している。

～中学部(みのまつり)、高等部(生活課程スポーツ大会)見学～

【学校経営計画について質疑応答】

<千馬委員>

4 防犯意識を高める対象は教員か児童生徒か。

<杉本校長>

4月に不審者対応訓練を教員のみでシミュレーション研修を行った。本来なら児童生徒も一緒に訓練を行いたいところだが、児童生徒の精神面を配慮するために教師のみで行っている。

<阿久根副委員長>

1 個別の教育支援計画をたてる時にアセスメントを実施しているのか。

<山本委員長>

入学前に事前に情報を得て作成すると思うが、作成者は誰になるのか。

<稲野教頭>

保護者の意向を聞きながら担任や学級で作成を行っていく。作成後は最終確認を保護者

に行い、その内容で実施となる。

<宮脇首席>

年1回、保護者と各シートの確認をしながら更新を行っているが、個別の教育支援計画に特化したアセスメントではなく、日々の連絡帳や個別の指導計画などを活用しながら、保護者と情報交換を行いながら作成している。

<杉本校長>

知的障がいを中心とする学校によっては客観的な検査を行う学校もあるが、肢体不自由を中心とする学校では難しい部分もある。すべての児童生徒に当てはめることは難しいと考えられる。

<阿久根副委員長>

2 働き方改革について。できることの限界はあると思うが、何かデジタル化を推進している部分はあるのか。

<吉村教頭>

朝の教職員の欠席も Google form を用いて連絡を行っている。それを全教職員で共有ができるため、情報共有がスムーズに行われている。また、欠席理由については管理職のみが閲覧できる設定になっているため、取捨選択して情報を共有することができている。

児童生徒も Google form を用いるため、以前は、首席が2～30件の電話を7時30分から受けていたのが、ほぼなくなり、電話がつながる時間も8時15分からとなっている。その部分では負担は減ってきている。

<藤嶋首席>

通学バスを利用している児童生徒は8割以上。以前は7時から通学バスからの連絡を受けていたが、それが10年前には7時30分からとなり、現在は8時15分となっている。

10年間という長いスパンで考えると働き方改革は進められていると感じている。

<阿久根副委員長>

どの業界も働き方改革がうたわれており、減らしてよい業務と、減らせない業務を見極めが大切になってきている。また参考にさせていただく。

<千馬委員>

先日、地域の方の懇談の中で進路の相談、見学希望があったが、みのおしえん相談ルームの活用の割合（地域、支援学校など）を教えてください。

<宮脇首席>

地域の小中学校、本校の教職員と様々な相談を受けているが、主には小中学校となっている。ホームページをみて本校に電話申し込みをするケースが多い。

<藤嶋首席>

件数は少ないがオンライン相談にも応じている。相談依頼者のニーズに応じた様々な形式で相談の場を設定している。

<切通事務長>

昨年度の相談件数について、割合は令和5年度第3回学校運営協議会の資料にも記載されているが、相談件数のべ35件のうち学校外からの相談は27件と説明されていた。

【委員より感想】

<阿久根副委員長>

先生方の楽しい環境作りが素晴らしいと感じた。児童生徒たちも役割があり、楽しく活動できる姿を見ることができ、大変参考になった。

<千馬委員>

自分の子どもが通っていた時の学校とは大きく変わっているのも、デジタル化の情報や学校活動に触れることができるのは大変ありがたい。地域の保護者と交流する機会もあるので、これらのことを共有し、広げられればと思う。

<山下委員>

初めて見る取組みを楽しく見学ができた。進路のことについても情報を得られ、勉強ができたのでありがたかった。

<山本委員長>

先生方が児童生徒と本気で向き合っている姿を見て「本物に出会わせる」大切さを改めて感じた。箕面支援学校は体験活動や経験などを重視する質の高いレベルの教育を行っている。大変だとは思いますがチャレンジしていってほしい。

【校長より】

今年度はコロナウイルス感染症の影響がほぼ無くなった1年となります。今年度は本校創立40周年だが、経営計画にも記載されている合言葉「一人ひとりのいのちの輝きを大切に」を大切にしながら、変えられる部分は変えていかなければならないと考えています。たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。今後も児童生徒のために頑張っていきます。本日はありがとうございました。